

つるみくみんぐ

鶴見区民会議ニュース第 49 号 平成 30 年 3 月発行



鶴見区民会議は、誰でも自由に参加できる話合いの場です。話合いから、うるおいがあり、心安らぎ、また活力のある地域社会づくりのアイデアが生まれます。

編集発行 鶴見区民会議運営委員会

区制100周年に向けて若者の声をこれからの鶴見へ

平成 29 年 11 月 10 日（金）鶴見公会堂で鶴見区民会議を開催し、「区制 100 周年に向けて若者の声をこれからの鶴見へ」をテーマに、地域でできることを参加者の皆様と考え、話し合いました。

◆講演会◆ 横浜商科大学学生による政策発表及びパネルディスカッション

司会進行・講師：秋山 ^{あきやま} 友志 ^{ともゆき} 氏

（横浜商科大学商学部観光マネジメント学科 特任講師）



横浜商科大学の学生が初参加し、鶴見区が抱える地域課題を解決するための政策を若者ならではの視点で発表しました。また、学生の発表をひまえ、若者・地域住民・区役所職員といった様々な立場のパネリストによるパネルディスカッションを行い、意見交換を行いました。

テーマ1 「海外観光客の誘致」

“鶴見区に訪日観光客を増やすためには？”を課題に、コミュニティサイクルと SNS※を活用し、鶴見の魅力を発信していくことを提案しました。

＜パネルディスカッションでは…＞

- ・羽田からのアクセスは良好だが、区内のアクセスを良くすることも必要。
- ・増える外国人観光客への対応（物販、宿泊、交通など）も考えていきたい。
- ・観光客が少ないことは、チャンスでもある。隠れた名所を SNS で発信することで魅力アップに繋がると思う。

※SNS…ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。

テーマ2 「『ワックン』を活用した地域力向上と魅力発信」

区マスコットキャラクター「ワックン」を募金活動などで活用し、若者の地域活動への参加促進や地域福祉協力者層の担い手拡大を目指す提案をしました。

＜パネルディスカッションでは…＞

- ・平成 30 年 1 月で「ワックン」は生誕 30 年。働き盛りなのでどんどん活躍してもらいたい。
- ・「ワックン」以外の鶴見のキャラクターも一緒にイベントに参加するのもいい。
- ・グッズの販売等で福祉関係の団体支援に繋がられる仕組みができるといい。

テーマ3 「若者の投票率向上」

選挙における若者の投票率を上げるため、移動式投票所や選挙割の導入、学校等での選挙講座の開催といった提案をメリット・デメリットの両面から検討し、発表しました。

＜パネルディスカッションでは…＞

- ・投票所を増やす他、投票時間の拡大もいいと思う。
- ・家族と折にふれて選挙の話をするのも大切だと思う。
- ・選挙の仕組みについても教育できるといい。



政策発表の様子

◆第1分科会◆「海外観光客の誘致」

<こんな意見がありました>

○鶴見の歴史をもとに掘り起こせば、観光に繋がるものが多くあるということが理解できた。

○地元企業や市民団体、鶴見在住の外国人にも協力を得ることが必要である。

○宿泊施設の充実や名所を結んだ観光コースの設定など、羽田空港や横浜港へのアクセスの良さを活用するべき。



議論にあたり、司会者から海外観光客に限定せず、国内を含めた幅広い誘客方法を考えてもらいたい旨の補足を行い、多様な意見が交わされました。

まず、「鶴見の魅力」について、冒頭では外国人を引きつける見所が区内にあるのか疑問を呈する参加者もいましたが、「私たちが普段見慣れて気づかないことが外国人にとっては関心の高いものもある」「生麦事件や京浜工業地帯の開発など日本の近代化において大きな影響を与えた歴史ある町である」という意見が出ました。

また、SNSの活用にあたり、「外国語表記への変換・写真利用上のプライバシーの問題」や「交通安全面の整備（例：サイクリングロードの導入）」など具体的な課題も挙がりましたが、「区内在住の外国人、企業や市民団体の協力を求める方法もある」という意見もありました。

鶴見の魅力、費用や安全性における課題、宿泊施設等の受入体制など、多面的な議論ができ、実現に向けた具体的な検討ができた分科会となりました。



◆第2分科会◆「『ワックン』を活用した地域力向上と魅力発信」

<こんな意見がありました>

○SNSを利用してワックンの知名度を上げる。

○年配の世代は「ワックン」を知らない人が多い。

町会の運動会でワックンを登場させれば知名度が上がるのではないか。

○着ぐるみを動きやすくしてほしい。



分科会では、「ワックン」のさらなる活用について、参加者から自由な意見が多数出ました。認知度について、「『ワックン』の由来が鶴見区の地形だったことを知らなかった」「母親や子どもには人気があるが、もっと他の層にも知ってほしい」など、まだまだ区内での認知度を上げていく必要を感じる意見がありました。

また、区役所が貸し出している着ぐるみについて、「大きすぎる」「動きにくい」など機能面の改善を求める声もありました。誰もが使いやすい着ぐるみとなることで、区内での「ワックン」活用の動きが高まることが期待されます。その他、「着ぐるみを各町会に作ってほしい」「町の運動会にワックンを出してほしい」といった意見もあり、区のマスコットキャラクターとしての需要の高さも感じられました。



地元への愛着や地域の繋がりを深めるアイテムとして、行政と地域住民が協力しながら、「ワックン」をさらに有効活用していきたいと感じる分科会となりました。

◆第3分科会◆「若者の投票率向上」

<こんな意見がありました>

- 期日前投票所が少ない。2か所とも海側にあるので、山側にも設置してほしい。
- “選挙割”※という制度があるのを初めて知った。
- 啓発方法の1つとして、「ワックン」を利用する方法もある。
- ネットやSNSの活用を検討していくことも今後の課題。

冒頭、司会者から鶴見区内の投票率の低迷について、説明がありました。その後、学生が提案した政策への意見・感想やその他の提案など活発に議論しました。特に、期日前投票所の増設を希望する声や選挙割について関心を持つ参加者が多くみられました。選挙割については、制度自体を初めて知った参加者もあり、自治会等でももっと話題にしたらいという意見が出ました。また、若者の投票率が低い理由について、学生からは「立候補者がどのような人か分からない」という意見がありました。これに関しては、選挙への関心や理解を深めるため、啓発活動での「ワックン」の利用やネット・SNSの活用も検討していくとよいという意見がありました。学生の参加により、若者の生の声を聴きながら様々な視点で話し合いをすることができ、まさに全体テーマ「区制100周年に向けて若者の声をこれからの鶴見へ」に繋がる分科会となりました。



※選挙割…選挙で投票したことを証明すると、協力する飲食店や専門店で割引などの優待サービスを受けられる取組

◆全体会◆「講評」 秋山 友志 氏

鶴見区と横浜商科大学は2015年に包括連携協定を結んでおり、その一環として、授業の中で鶴見区をよくするための政策を話し合い、発表する「鶴見まちづくり政策コンペ」というものを行ってきました。

今回、この区民会議という場で学生が発表できたことは、学生にとってとてもいい経験になったと思います。

先日、市の職員に「横浜市民の地域への愛着度」に関する話を聞く機会がありました。その中で、「横浜市民は市に対しての愛着度は高いが、区に対しての愛着度は低い」という話を聞きました。ぜひ、皆さんには区に対する愛着をたくさんもってほしいと思います。

今回3つのテーマがありましたが、この3つのテーマは区への愛着を持ち、若者との繋がりを保ちながら活発に議論していくことで解決になる部分もあると思います。

本学としましても、学びのフィールドとして鶴見の地域の皆さまのお力をお借りすることもありますが、どうぞよろしくお願いいたします。



区民会議に参加して下さった学生の皆さん



【問合せ先】 鶴見区役所 区政推進課 広報相談係
〒230-0051 鶴見区鶴見中央3-20-1
電話：510-1680 FAX：510-1891